

卵巣嚢腫と診断された方へ

1. 卵巣嚢腫とは

卵巣は、子宮の両側に1つずつあり、成人女性では親指ほどの大きさがあります。ここから、定期的に女性ホルモンの分泌と排卵が起こり、女性の体に一定のリズムを作り出しています。卵巣に腫瘍ができ大きくなると、正常組織が圧排され、これらの機能が低下することがあります。卵巣にできる腫瘍には良性と悪性があり、その9割は良性です。良性腫瘍を卵巣嚢腫、悪性腫瘍を卵巣がんと呼びます。また、そのどちらにも属さない中間群もあります。

2. 卵巣嚢腫の症状

卵巣は腫瘍ができて症状が出にくいいため、検診や別の病気の検査で偶然見つかることもよくあります。しかし、ある程度大きくなると、下腹部が膨くらんだり、しこりを感じる場合があります。

また、卵巣嚢腫は時に突然下腹部の激しい痛みを起すことがあります。これは、腫れた卵巣が根本から捻れた（茎捻転）時に起こります。捻れた部位から血行が途絶え、卵巣の細胞が壊死（腐ること）してしまうため、この場合は緊急手術が必要です。

3. 卵巣嚢腫の診断

卵巣の腫瘍の診断は膣から挿入した超音波で行います。全体像を把握するためにCTやMRI検査を行うこともあります。卵巣嚢腫の種類や悪性の可能性について血液中の腫瘍マーカーを検査します。

4. 卵巣嚢腫の種類

(1) 漿液性嚢胞腺種

内容液はさらりとした液体で満たされています。腫瘍ですので縮小することはなく次第に大きくなります。無症状のことが多く、かなり大きくなってから見つかるのが普通です。

(2) 粘液性嚢胞腺種

内容は多房性でゼラチンの様な粘りのある液体で満たされています。腫瘍ですので縮小することはなく次第に大きくなります。やはり多くの場合無症状です。

(3) 皮様嚢腫

卵巣にできる奇形種の一つで、20才代に比較的多くみられ、中には皮脂や髪の毛、歯、骨、皮膚などが含まれています。いびつな形の場合があるため茎捻転を起こしやすい卵巣嚢腫です。両側性に発生することもあり、また、高齢になると稀に悪性化することもあります。

(4) チョコレート嚢腫

子宮内膜症が原因で出来た卵巣嚢腫です。中は古い月経血で満たされ、チョコレートのように見えるところから、このように呼ばれます。

[チョコレート嚢腫についての詳細は「子宮内膜症やチョコレート嚢腫と診断された方へ」を御参照ください。](#)

5. 治療方針

(1) 卵巣嚢腫の多くは、放置して消えることは無いため、手術による摘出が必要になります。

基本的には小さな嚢腫（5cm以下）であれば、まず定期的な検査で経過観察します。6~7cmになると、茎捻転などの危険性が出てくるので手術を考えます。

(2) 子供が欲しい方

排卵の機能を残す必要があるため、嚢腫の部分のみを摘出して卵巣の正常部分を残します。

(3) 閉経した方

卵巣の機能は必要ないため、卵巣を全摘出します。反対側の卵巣からも嚢腫が再発することもあるため、両方の卵巣を取ることもあります。

(4) 卵巣機能を残したい方

病気の側の卵巣を全摘しても、片方の卵巣が残ればホルモンは十分補うことができます。

6. 手術の方法

(1) 開腹手術

お腹を切って卵巣の手術をします。どんな腫瘍であっても対応できる手術です。悪性腫瘍の疑いがあるとき、お腹の中の癒着が強いとき、腫瘍が大きいときはこの方法を選択します。

(2) 腹腔鏡下手術

現在は内視鏡で卵巣を手術することも可能になっており、これを「腹腔鏡下手術」と呼んでいます。お腹に2?3カ所小さな切開を入れ、ここから内視鏡を挿入して、卵巣を手術します。この方法は開腹手術に比べて傷が小さく体の負担も少ないので、入院期間が4~5日と短く、回復も早いのが利点です。

[腹腔鏡下手術についての詳細は「腹腔鏡下手術について」をご参照ください。](#)

以上

おわかりにならない点がありましたらご遠慮なく担当医にお尋ねください。